

2010 年禁止表へのプソイドエフェドリン再導入に関する追加情報

WADA 禁止表委員会はプソイドエフェドリン(PSE)を、尿中閾値 150 $\mu\text{g/mL}$ をもって競技会（時）で禁止される興奮薬の特定物質として2010年禁止表へ再導入した。この決定は文献(参考論文 1-5)とともに、管理された排泄試験の結果に基づいている。

PSE を含む医薬品が広く利用可能であることから、WADA は PSE の再導入が、すべての関係者による積極的な情報提供／教育キャンペーンで支援されることを提言する。

これに関連して、WADA は以下の情報を出来る限り速やかに**競技者**および**競技者支援要員**に伝えることを提言する。

個人によっては稀ではあるが、長時間作用剤の服用後 6–20 時間以内に設定した閾値まで達する可能性がある。

競技者は少なくとも競技会 24 時間前までに PSE 錠の服用を中止するよう忠告する。

競技会期間中の治療には、前もって医師に相談し別の許可された医薬品を使うことを考慮するか、あるいは PSE の治療用使用について、治療目的使用に係る除外措置(TUE)の申請を行うこと。

閾値は、以下の用法で PSE の最大 1 日用量である 240 mg を服用した結果に基づいて設定した。

- i) 1 日 4 回(4–6 時間毎)、1 回に 60 mg 錠剤 1 錠または 30 mg 錠剤を 2 錠
- ii) 1 日 2 回(12 時間毎)、1 回に 120 mg 錠剤 1 錠
- iii) 1 日 1 回 240 mg 錠剤、1 回に 1 錠

この投与方法に沿って、例えば 60 mg 錠剤 3 錠を 1 日量として 1 回で服用すると、治療量を越えた投与となって、**違反が疑われる分析報告**として扱われてしまう可能性がある。

参考論文

- 1- Gill N.D. et al (1999). Br J Clin Pharmacol 50, 205-213.
- 2- Chester N. et al. (2003). Br J Clin Pharmacol 57 :1, 62-67
- 3- Hodges K. et al. (2006). Med & Science Sports & Exercise, 329-333
- 4- Strano-Rossi S et al. (2209). Ther Drug Monit 31: 520-526.
- 5- Deventer K. Et al. (2009). Drug Test Analysis 1, 209-213.